

## 令和五年度 第1回居合道四・五段審査会講評

教士七段 三浦 康典

令和5年9月18日、残暑厳しい中「令和五年度 第一回居合道四・五段審査会」が、東京武道館第二道場にて開催されました。新型コロナウイルスの終焉が見えない中、早朝より準備をしていただいた関係者の方に感謝申し上げます。

実技審査の指定技は五段・四段共通で、1本目古流のあと、全日本剣道連盟居合4本目柄当て、6本目諸手突き、7本目三方切り、11本目総切りが指定されました。

四段合格者は受審者54名中22名合格、合格率40.7%、五段合格者は受審者33名中12名合格、合格率36.4%という結果となりました。

合格された皆様、ご昇段おめでとうございます。また、残念ながら不合格になられた皆様には今回の審査結果を糧に、なお一層稽古に励み次回合格されることを期待しております。

段位の付与基準では、四段「剣道の基本と応用を修熟し、技倆優良なるもの」、五段「剣道の基本と応用を練熟し、技倆秀なるもの」としており、①正しい着装と作法②正確な抜付け、切付け③正確な血振り、角度④正確な納刀に加え、四・五段には①心の落ち着き②目付け③気魄④気・剣・体の一致が求められます。このことを念頭に全日本剣道連盟居合（解説）に基づき審査させていただきます。審査上の着眼点はもとより、術技においては〔要義〕を理解した上での〔動作〕を表現することで、活きた居合の演武となり、補足、作法を身に付けることにより修行の深さ、練度が増すと思います。

今回審査において気になった点（気がりポイント）を示させていただきます。

### 〔入場～礼法〕

審査では入場から退場までを評価させていただきます。立ち姿は自然体であり四方に気を配った立ち姿が求められます。

礼法は滞りなく行うよう心がけていただき加点無くとも減点の無いようにしてください。

気がりポイント：①緊張のためか立ち姿に無駄な力が見られました。②着座時刀をいったん左腿上に置く動作が省略されている。③刀を取るときに鎧近くを取っていない。④刀をわずかに右前に引き出すところを、出し過ぎている。⑤脱刀時に左手を左帯に送り左腰に当てる動作が曖昧である。⑥刀を正面中央に立て左手をなで下ろす際、鐙元近くからなで下ろしている。

#### 〔古流〕

各流派の作法・所作に則り演武していただきますが、修行の深さ及び居合観（感）、取り組み方を見させていただいております。全日本剣道連盟居合上達のためにも、自流の研鑽をお願いいたします。

#### 〔抜き打ち〕

鞘離れと同時に抜き打つこととなります。諸手突きでは「右斜面からあごまで」、三方切りでは、「頭上からあごまで」抜き打ちます。激しく正確な刃筋のためには、左手操作で刃筋を整え、強い鞘引きが必要となります。片手切りになりますので、手切りにならないよう全身を使った切りができると良いです。

気かかりポイント：①刀が切るべきところに届いていない。②抜き打ちが高く正中線を捕らえられていない。③刃筋・角度が整わない。

#### 〔切り下ろし〕

居合道では片手で抜いた刀を諸手で切り下ろす事となりますが、諸手に変化する際の手の内は固めずに刀が自由に動けるよう手の内の研究をしてください。

気かかりポイント：①振りかぶり諸手になったところで柄を握ってしまい、間が空いてしまう。②余分な力により刃筋が通らない。③左手が丹田に納まらない

#### 〔体捌き・軸足〕

要義に即した仮想敵に対する体捌きが動作に示されています。カタチだけの動作にならないよう軸足を使うことの作用と効果を研究してみてください。

気かかりポイント：①体捌きによる体の移動で腰の上下動が生じてしまう。②体軸の傾きが生じてしまう。③軸足が浮いてしまう。

#### 〔血振り、納刀〕

四方への気配りを緩めることなく、正確な所作をお願いします。

気かかりポイント：①血振りの刃の向き、角度が確保されていない。②回し納刀となっている。

#### 〔その他〕

気かかりポイント：①突きから振りかぶり切り下ろす場合、柄頭より振りかぶり切り下ろす事となりますが、諸手上段になった時点で切先が下がり、その状態から切り下ろしている。②4本目「柄当」てにおいて、前後の敵の水月を捕らえていない。③6本目「諸手突き」において、後の敵へ転換する際、切先が体幅の外に出てしまう。④7本目「三方切

り」においては、右の敵に対して、回し切りとなっている。⑤右の敵への抜き打ちの祭、左足の軸足が動いてしまう。また、軸足かか上がりが上がりすぎてしまう。⑦11本目「総切り」の切つけ時、左手が正中線から外れる。また、腰腹部を水平に切れておらず、刀を振り回し上段に取っている。⑧各種構えにおいて、カタチのみとなってしまう攻めがない。

はじめに、審査対象は入場から退場までと申し上げました。

入場時緊張のあまり余分な力が入り、指定技5本目が終わったところで安心して開始線を目で探すように戻る方も散見されました。退場するまで気を抜かず自然体で審査をやりきる気持ちで挑んでください。

自らに言い聞かせながら、審査の講評とさせていただきます。